

令和 4 年度

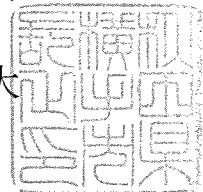
横手市農地利用最適化推進施策等に関する
意見に対する回答書

横手市農業委員会

会長 飯野 正和 様

令和 3 年 1 2 月 2 7 日

横手市長 高橋 大



【 意 見 】

1 自然災害による農業被害への対策について

令和2年から3年までの冬期の大雪による農業災害については、関係機関の迅速なご対応と被災農家の懸命のご努力により、復旧が進んでおりますが、復興には果樹を中心に長い年月が必要となり、離農による産地の衰退や農地の遊休化が懸念されます。

引き続き農家の不安を解消し、将来の営農に希望を持てる復旧支援予算の確保を求めるとともに、今後も発生が予想される大規模自然災害に備え、農家や地域の実情に応じた、防災・減災対策を講じて頂くよう要望します。

【 回 答 】

ご意見にありますとおり、果樹においては、改植後の未収益期間が一定程度あることなど、完全な復旧には時間を要することから、市単独の薬剤助成などによる支援を、復旧の度合いを勘案しつつ継続するほか、県果樹試験場や市内企業と連携し、雪に強い支柱の開発・普及にも取り組んでいく考えです。

また、近年、自然災害については常態化していると言っても過言では無く、防災・減災への備えは非常に重要であると認識しております。このことから国・県の支援事業のほか、市単独の各種事業の活用・周知に努め、「自然災害に強い産地づくり」を推進し、農家の営農継続や生産基盤強化を後押ししてまいります。

貴委員会におかれましても、日頃の活動を通じて、農家の皆様へ共済、収入保険、収入減少影響緩和対策（ナラシ）、農産物価格安定化対策制度などへの加入呼びかけをお願いいたします。

【 意 見 】

3 労働力の確保・育成について

本市の農業就労人口は年々減少しており、平均年齢も上昇し、後継者不足が深刻な課題となっています。

このことから、横手市園芸振興拠点センターにおける研修制度をはじめ、様々な就農対策により、一定の成果があることは重々理解しておりますが、更なる新規就農者の確保に努めるとともに、地域の中心経営体等の後継者育成に対する支援策を検討するなど、積極的な担い手の確保・育成に向けた取り組みを要望します。

【 回 答 】

農業を支える担い手の確保・育成は、農業が抱える全国共通の深刻かつ喫緊の課題であると認識しております。

本市は、県・JA・市の担当する業務範囲がほぼ同じであり、その強みを活かし、他の自治体では実現し難い事業を進めることができいております。

園芸振興拠点センターにおける研修制度においても、農業委員会をはじめ、県やJAの協力により、新規就農者の確保・育成に大きな成果を上げております。

今後は法人就農なども視野に、出来る限り意欲的な人材を確保出来るよう農業関係者への呼びかけを行うほか、農業の魅力のPRや新規就農者の営農定着にも力を注いでまいります。さらに、本年10月1日にJA秋田ふるさとが開設しました「無料職業紹介所」を活用し、多様な人材の確保にも努めてまいりますので、地域の実情に詳しい、農業委員、推進委員各位からのご協力もお願いいたします。

【 意 見 】

5 ロボット技術やICTを活用したスマート農業の展開について

担い手の高齢化による労働力不足が深刻化する本市において、スマート農業技術の導入は有効な解決策の一つであることから、官民連携で技術向上や導入コストの低減、人材育成に取り組めるよう、十分な予算措置を要望します。

【 回 答 】

スマート農業の展開については、高齢化による労働力不足への対応のみならず、基盤整備の進捗に伴う大規模圃場における作業の省力化や効率化、さらには作物の高品質化など、様々な面で有用であり、積極的に推進すべき事案であると認識しております。

これまでも市では、ドローンの導入支援事業のほか、ICT導入支援事業として「スイカ集出荷アプリ」の開発支援など、独自の取り組みにより成果を上げております。

今後も大学や企業と連携した各種実証・実験を進めるほか、支援事業の導入についても必要性を含め、検討してまいります。

【 意 見 】

7 鳥獣被害対策の強化について

本市における野生鳥獣による農業被害は、これまでのクマ等に加え、イノシシによるものが増加し、深刻な問題となっています。

こうした被害を受けた農業者の精神面・経営面での痛手は大きく、生産意欲の低下や喪失にも繋がりがねないことから、より一層の被害防止対策の拡充を要望します。

【 回 答 】

害獣による農業被害は年々増加しており、農業のみならず、市民の安全確保という面でも深刻な問題と捉えております。

市では、今年度より市単独事業としての「農作物等獣害被害防止対策事業」を創設し、電気柵の設置などに支援を開始しております。

また、近年増加しているイノシシについては、豚熱の発生原因となる恐れもあるため、県や近隣市町村、猟友会との連携を密に対策を進めてまいります。